

「三瓶版モデル型体験活動開発事業」

～特色化事業&実践研究事業～

I 趣旨

- ・地元大田市の公立小学校と連携し、当所での集団宿泊活動を通して児童の変容を調べることで、学校のねらいや実情を踏まえた「自己肯定感」と「他者理解」の育成支援に係る具体的方策の在り方について研究し、当所を利用して行う集団宿泊研修の三瓶版モデル型プランの開発を進める。
- ・地域の要望に応え、実態に応じた研修支援の在り方を検討していく。

II 事業構想と概要

1 事業構想

(1) 1年目（令和3年度）

- ・協力校大田市立A小学校の実態に応じた集団宿泊研修を実施した。
- ・SEL-8S アンケートを用いて1クラス21人の児童の変容を調査した。
- ・取組前後で対人関係に関する能力の向上が見られ、SAP (Sanbe Adventure Program) の有効性がされた。

(2) 2年目（令和4年度）

- ・1年目を受け、より多くのアンケート集計を行いたいと考え、大田市の小学校3校の実態に応じた集団宿泊研修を実施し、延べ100人以上のアンケート分析を行った。
- ・登山プログラム用のワークシートを用いての振り返りを実施し、登山プログラムの有効性を調査した。

(3) 3年目（令和5年度）

- ・当所を利用する大田市の小学校と協力し、三瓶版モデル型プランの活用を通して、当所教育テーマに関する「自己理解」、「他者理解」につながる研修を推奨していく。
- ・登山、SAP、野外炊飯ではワークシートを用いての振り返りを実施

(4) 4年目（令和6年度）

- ・これまでの研究成果を基に三瓶版モデル型プランを改訂の上、実施し、年度末までにこれまでの成果をまとめ、指導参考資料を作成する。

(5) 5年目（令和7年度）

- ・指導参考資料を活用しながら当所を利用する学校団体の集団宿泊研修の研修デザインを提案していく。

2 テーマ

「自己を見つめ、他者とつながる人間力の育成」

3 主催

国立三瓶青少年交流の家

4 後援

大田市教育委員会

5 協力

大田市立A小学校 5年生 33人

大田市立B小学校 5年生 31人

大田市立C小学校 5年生 66人

6 講師

福岡教育大学 教育学研究科 スクールシップリーダーシップ開発コース 准教授 山田 洋平 氏

Ⅲ 今年度事業の概要

1 1年目の実践を踏まえた設定の見直し等

(1) 特色あるプログラムの変更

令和3年度（研究1年目）は教育テーマ「自己を見つめ、他者とつながる人間力の育成」に基づき、三瓶山を舞台にした「登山」と人間関係プログラム「SAP (Sanbe Adventure Program)」をメインプログラムに設定することで、児童の「自己肯定感と他者理解」の変容について調査・研究を行うこととした。

しかし、SAPは職員がファシリテーターを務めており、活動内容だけでなく、担当する職員の関わり方も児童の変容に与える影響が大きい。複数の影響を受けることから、SAPはプログラムと児童の変容との因果関係を正しく把握しにくいと考え、令和4年度からは登山に絞って研究を行うこととした。

また、三瓶山登山がもつ教育的価値を以下のように捉えた。

- 三瓶山は当所の目前にあり、標高はあまり高くない。標高が1,126mの三瓶山は、小学生にとって適度な負荷を与え、挑戦しやすい山といえる。
- 「山に登る」という同じ困難にチャレンジすることで集団の一体感を得やすく、困難を乗り越えることで忍耐力や達成感を得ることができる。
- 課題達成の過程を丁寧に振り返ることで自己肯定感の向上に大きく関わる自己理解や他者理解が促される。

2 研究仮説の設定

研究仮説を以下のように設定した。

【研究仮説】

当所において、三瓶山登山を取り入れた集団宿泊研修を行うことで、児童は自ら進んで自己を見つめ、他者とつながろうとするだろう。

登山プログラムでは、上述したように、同じ困難にチャレンジすることで集団の一体感を得やすく、困難を乗り越えることで忍耐力や達成感を得ることができる。また、活動中はもちろん、実施前の目標づくりや実施後の振り返りなどで、話し合いや協力し合う児童の姿が想定できる。そのような登山プログラムによって、当所の教育テーマ「自己を見つめ、他者とつながる人間力の育成」に欠かせない「自己理解」や「他者理解」が促されると考えた。

また、当所での集団宿泊研修は、仲間と共に宿泊することやSAPなどの様々な活動を一緒に行うことで、集団の人間関係をより深めることができる。その上で登山を行うことにより、「自己理解」や「他者理解」の深化につながると考えた。

上記の研究仮説をもとに、自ら進んで自己を見つめ、他者とつながろうとする児童の育成につながる集団宿泊研修プラン（三瓶版モデル型プラン）を構築し、各校に提供するとともに、その成果を検証する。

この研究で明らかになったことや実践例は、各学校が集団宿泊研修を計画する際の参考となるよう、指導参考資料としてまとめる。

そして、将来的にはこの研究で得られた成果をもとに、各学校の実態に応じた集団宿泊研修を提供することを目指していく。

3 協力校における研修とアンケートの実施

令和3年度から引き続き、福岡教育大学准教授（前島根県立大学准教授）山田洋平氏と連携し、心理教育プログラム「社会性と情動の学習（SEL）」を活用し、本研究の進め方やアンケートの結果の分析・考察を行った。

また、令和3年度に引き続き、地元大田市との連携を行った。大田市教育委員会の協力の下、大田市内の小学校3校に協力を依頼した。昨年度はA小学校5年生21人の変容を調べたが、今年度は100人程度のデータを集め、より総合的に教育効果を分析していきたいと考えた。3校にはアンケート依頼や研修計画づくりの提案・助言を行った。

IV 今年度の取組の実際

1 大田市立A小学校 5年生1クラス 33人

(1) 集団宿泊研修の日程について

A小学校とは事前に打合せを実施し、研修日程の相談を行った。計画では、2泊3日の研修を想定していた。コロナ禍において、日程を短縮する必要があったため、集団宿泊研修の前に出前授業として「SAP」を実施した。

2泊3日の宿泊研修の中に、「登山プログラム」を設定し、プログラムの有効性をより高めるために、登山前の目標づくりと登山終了後の振り返りができるワークシート（資料3-1、資料3-2）を活用し、登山終了後に振り返りの時間を設定した。

9月28日（水）から当所において集団宿泊研修に取り組んだが、諸事情により予定を変更し、2日目の朝に帰校した。そのため、登山プログラムの実施ができなかった。

① 出前SAPの日程

9月22日 (木)	9:35	12:20
	出前授業 (S A P)	

図1 出前授業の日程

② 集団宿泊研修の当初日程

9月28日 (水)	11:00	12:00	13:00	16:00	17:50	18:30	19:50	21:00	22:30
	埋没林 公園見学	入 所 オリエン テーシ ョン	昼 食	オリエン テーリング	登山事前指導	夕 食	入 浴	ナイト ハイク	班 長 会
9月29日 (木)	9:00	14:00	15:00	17:30	18:30	19:50	21:00	22:30	
	登 山 (男三瓶山)			登山 振り返り	カブラ	夕 食	入 浴	ファイヤ ースト ーム	班 長 会
9月30日 (金)	9:00	14:00	15:00						
	野外炊飯 (ビーフカレー)			退 所					

図2 集団宿泊研修の当初計画日程

③ 集団宿泊研修の実際の日程

9月28日 (水)	11:00	12:00	13:00	16:00	17:50	18:30	19:50	21:00	22:30
	埋没林 公園見学	入 所 オリエン テーシ ョン	昼 食	オリエン テーリング	登山事前指導	夕 食	入 浴	ナイト ハイク	班 長 会
9月29日 (木)	9:00								
	退 所								

図3 集団宿泊研修の実際の日程

2 大田市立B小学校 5年生1クラス 31人

(1) 集団宿泊研修の日程について

B小学校とは事前に打合せを実施し、研修日程の相談を行った。登山プログラムは、学校の実態を考慮し、行わないこととした。

① 集団宿泊研修の日程

10月13日 (木)	9:40	10:20	12:00	13:30	15:30	17:30	18:30	20:15	22:30
	オリエンテーション 入所	SAP	昼食	ネイチャー トレイリング		夕食	キャンプ ファイヤー	入浴	就寝
10月14日 (金)	9:20	12:00	13:00	14:15					
	埋没林 公園見学 ・ サヒメル見学	昼食	木工キーホルダー づくり	退 所					

図4 集団宿泊研修の日程

3 大田市立C小学校 5年生2クラス 66人

(1) 集団宿泊研修の日程について

事前に打合せを実施し、研修日程の相談を行った。当初は2泊3日の研修を予定していたが、諸事情により、1泊2日の研修となった。そのため、A小学校同様に事前段階で出前授業として「SAP」に取り組んだ。また、研修中に「登山プログラム」を設定し、A小学校同様にワークシートを用いて、事前の目標づくりと事後の振り返りを行うこととした。

研修直前に諸事情により、研修を2日間の日帰りに変更して実施することとなった。

① 出前SAPの日程

10月24日 (木)	10:35	12:15	13:55	15:35
		出前授業 (SAP2組)		出前授業 (SAP1組)

図5 出前授業の日程

② 集団宿泊研修の日程（当初計画）

10月27日 (木)	9:00	10:00	15:00	17:30	18:30	20:20	21:15	22:30
	オリエンテーション 入所	登山 (男三瓶山)	登山 振り返り	夕食	キャンドル のつどい	入浴		就寝
10月28日 (金)	9:00	13:30	14:00					
	野外炊飯 (ビーフカレー)	退 所 式	埋没林 公園見学					

図6 集団宿泊研修の当初計画の日程

③ 集団宿泊研修の日程（実際）

10月27日 (木)	9:00	10:00	15:00		15:30
	入所 登山指導	登山 (男三瓶山)		登山 振り返り	退所
10月28日 (木)	9:00	11:00	12:30	14:30	
	入所	木工 キーホルダー	昼食	キャンドルのつどい	退所

図7 集団宿泊研修の実際の日程

4 アンケートについて

今年度も、前年度に引き続き SEL-8S (Social and Emotional Learning of 8 Abilities at School) の効果を測定するために SEL-8S アンケートを用いた。SEL-8S アンケートでは8つの社会的能力を調べることができる。8つの社会的能力とは、表1に示したものである。

当所教育テーマに関連する社会的能力	①	自己への気づき
	②	他者への気づき
	③	自己のコントロール
	④	対人関係
	⑤	責任ある意思決定
その他の社会的能力	⑥	生活上の問題防止スキル
	⑦	人生の重要事態に対処する能力
	⑧	積極的・貢献的な奉仕活動

表1 SEL-8S アンケートにおける8つの社会的能力

上記8つの指標のうち、当所の「教育テーマ」と関連する①～⑤の指標についてアンケートを行い、変容を調べることにした。

アンケートは、モデル協力校の集団宿泊活動実施日を基準とし、

- I 事前アンケート（1回目）：集団宿泊研修のおよそ2か月前に実施
- II 事前アンケート（2回目）：集団宿泊研修の直前に実施
- III 事後アンケート（3回目）：集団宿泊研修の直後に実施

の計3回実施した。1回目のアンケートは、児童の日常における実態を把握するために、集団宿泊研修の前に実施した。2回目は出前授業（SAP）後、3回目は集団宿泊研修後にそれぞれ設定した。

また、各学校の教員からも、集団宿泊研修が終了してから2か月ほど経過した頃に聞き取りアンケートを行い、各学校の教員の視点から見取ることができる集団宿泊研修による変容を調査した。質問項目は、次の3つである。

- ① 宿泊研修直後に感じた児童の変容は何か。
- ② 11月下旬と年度当初を比較して見られる児童の変容は何か。また、その変容の中で宿泊研修の効果だと感じられるものは何か。
- ③ 体験した活動プログラムは児童にとってどうだったか。

国立三瓶青少年交流の家 登山プログラムワークシート【目標づくり編】

小学校 年 組 番 名前

○登山チャレンジ日: 月 日 曜日 目的地

○通るルート : 行きのルート: コース 帰りのルート コース

○班の目標

○班の目標達成のために自分がやること

三瓶山の標高は1,126(いい風呂)mです。

登山をしている時はつらく苦しい時もあるかもしれませんが、

それでも仲間とともにやりとげた時は、

きっと大きな達成感を感じるでしょう。

みなさんの登山がすてきな体験になりますように!



資料1 登山プログラムワークシート表面 (目標づくり編)

国立三瓶青少年交流の家 登山プログラムワークシート【ふりかえり編】

小学校 年 組 番 名前

次の質問の当てはまる番号に○をつけましょう。

①班の目標は達成することはできましたか?

わからない	まったく できていない	あまり できていない	少してきた	とてもできた
0	1	2	3	4

②班の目標達成のためにがんばりたいことはできましたか?

わからない	まったく できていない	あまり できていない	少してきた	とてもできた
0	1	2	3	4

③登山をしてみて、どんなことを感じましたか?自由に書きましょう。

④登山の体験を今後に生かすことができそうですか?

わからない	まったく できない	あまり できない	少しできる	とてもできる
0	1	2	3	4

⑤④の質問の番号を選んだ理由を書きましょう。

資料2 登山プログラムワークシート裏面 (振り返り編)

V 各校のアンケート結果

1 大田市立A小学校

(1) SEL-8S アンケート

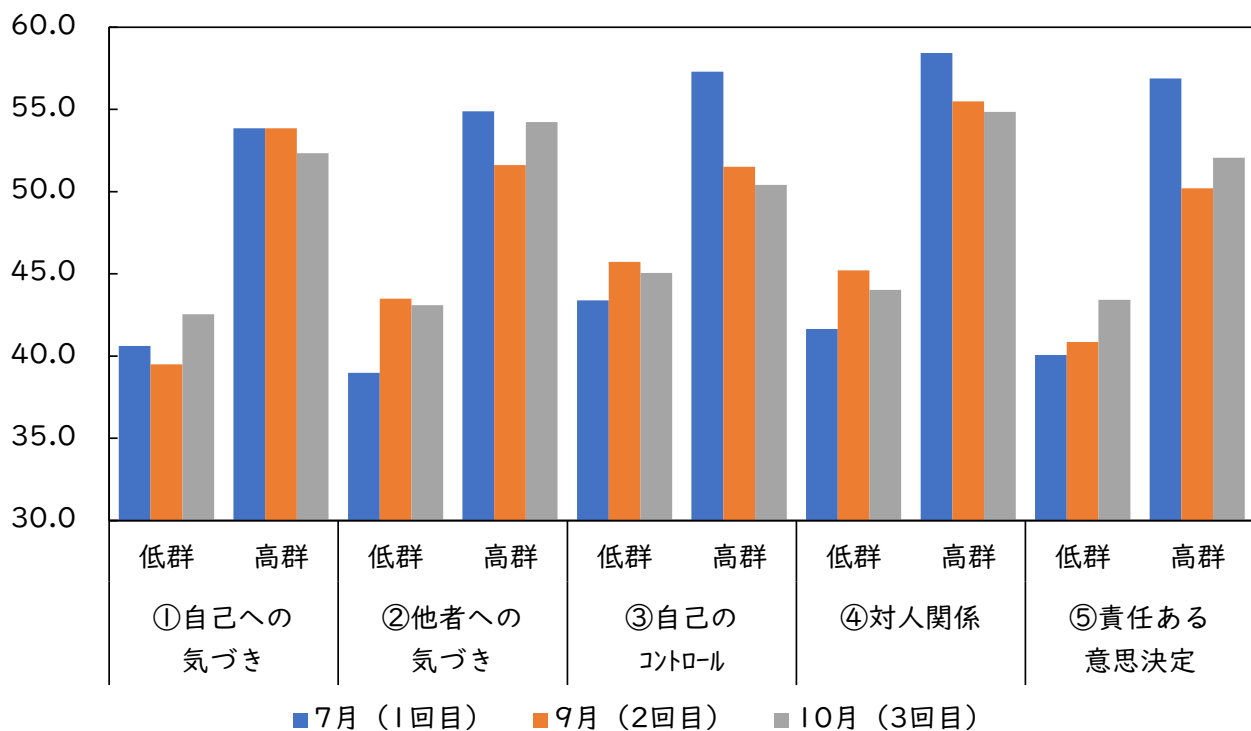


図8 大田市立A小学校 得点推移

※ 縦軸は、各項目の偏差値を表している。

※ 「低群」「高群」は、7月段階で各項目の得点が学級内の平均値よりも低かったグループと高かったグループを表している。

(2) 教員へのアンケート

① 宿泊研修直後に感じた児童の変容は何か。

・周りの人への声掛けや、応援ができるようになった。

② 11月下旬と年度当初を比較して見られる児童の変容は何か。また、その変容の中で宿泊研修の効果だと感じられるものは何か。

・学級の中であまり関わりが多くない児童同士が関わるきっかけとなった。今まで、児童が褒められたり、がんばったりしたことを学級全体に紹介しても、他の児童にとっては、どこか他人事のような感じがしていた。しかし、SAPを終え、宿泊研修に向かう1週間の期間は、特に学級のまとまりを感じることができた。

③ 体験した活動プログラムは児童にとってどうだったか。

○ SAP

様々な活動があり、子どもたちが飽きずに、いろいろな人と関わるできていた。また、宿泊研修前の事前学習であったため、「(宿泊研修が) 楽しみになった」「(宿泊研修で) どんなことをするのか見通しがもてた」などと意欲付けにもなった。

○ オリエンテーリング

自分勝手に動いて仲間に迷惑をかけることもあったようであるが、それを見捨てずに、班で動いてゴールできたことがよかった。そのことで、班への所属感をもつことができた児童もいた。試行錯誤を繰り返しながら、自分たちの力で活動ができていたと思う。

○ ナイトハイク

真っ暗な夜道という設定もあり、オリエンテーリングのときよりも、班で協力して行動していた。男子も女子も関係なく、みんなで声を掛けあって、勇気を出して夜道を歩いていた。夜道を歩く前に、子ども同士で、怖いのが得意な人や苦手な人を班で確認していた。それをもとに、夜道を列の並びを考えて歩いていたり、立ち止まってしまった人をみんなで待ったりする姿があった。自分たち全員でゴールするための作戦を考えていた。

2 大田市立B小学校

(1) SEL-8S アンケート

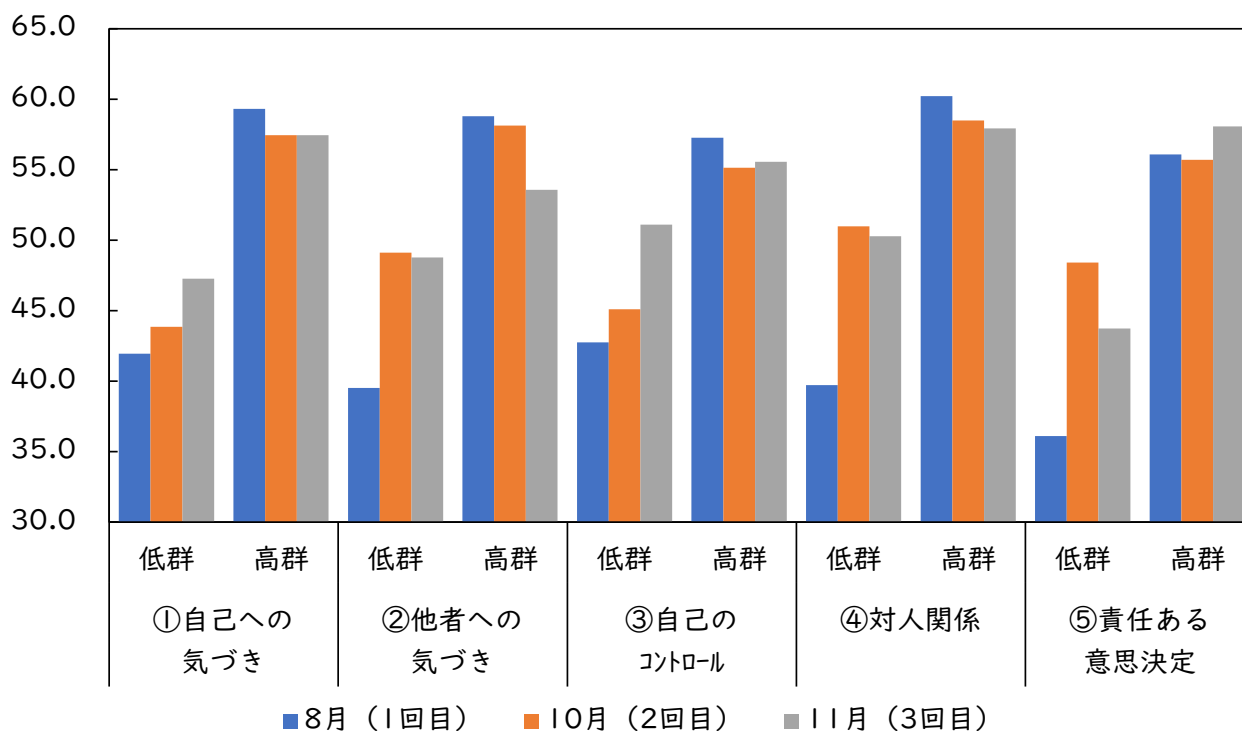


図9 大田市立B小学校 得点推移

※縦軸は、各項目の偏差値を表している。

※「低群」「高群」は、7月段階で各項目の得点が学級内の平均値よりも低かったグループと高かったグループを表している。

(2) 教員へのアンケート

① 宿泊研修直後に感じた児童の変容は何か。

- ・時間を気にする児童が増えた。
- ・ON と OFF の切り替えが早くなった。

② 11月下旬と年度当初を比較して見られる児童の変容は何か。またその変容の中で宿泊研修の効果だと感じられるものは何か。

- ・楽しそうに過ごしていると教員が感じ取れるくらい友達と遊ぶようになった。

③ 体験した活動プログラムは児童にとってどうだったか。

○ SAP

ふだん関わりの少ない児童同士の交流ができて良かった。振り返りにも、前向きな言葉が多かった。

○ ネイチャートレイリング

みんなで歩調を合わせながら歩いたことで、協力することや相手のことを考えることの大切さに気付いた子が多かった。

○ 木工キーホルダーづくり

自分の作品よりも「手伝ってもらった」「おそろいにした」など、ここでも相手のことを思った行動や言葉が多かった。

3 大田市立C小学校

(1) SEL-8S アンケート

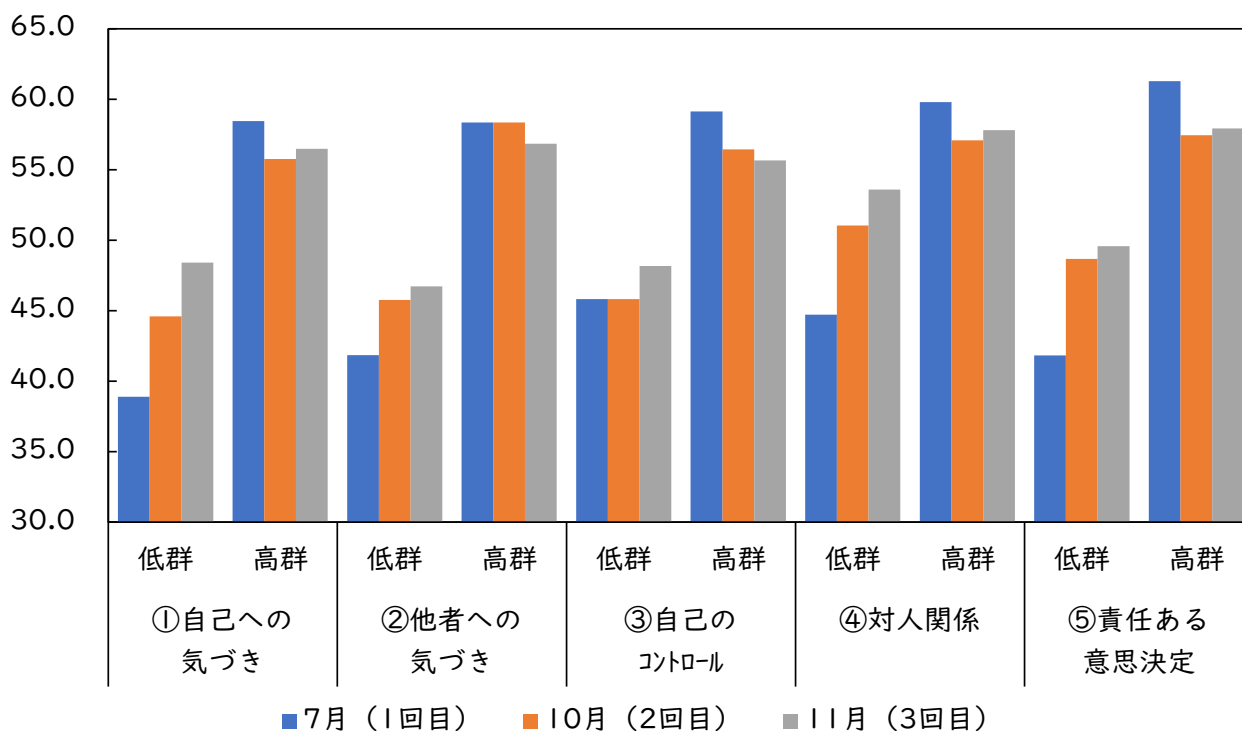


図 10 大田市立C小学校 得点推移

※縦軸は、各項目の偏差値を表している。

※「低群」「高群」は、7月段階で各項目の得点が学級内の平均値よりも低かったグループと高かったグループを表している。

(2) 教員へのアンケート

① 宿泊研修直後に感じた児童の変容は何か。

- ・みんなで仲良く過ごす雰囲気が強まった。
- ・自分に自信をもって学校生活を送る児童が見られた。

② 11月下旬と年度当初を比較して見られる児童の変容は何か。またその変容の中で宿泊研修の効果だと感じられるものは何か。

- ・今まで希薄だった人間関係の子ども同士が宿泊研修を通して、仲良くなって学校生活を送ることができるようになった。
- ・集団の中でリーダー性を育み、意欲的に学習を進める児童が育ってきた。

③ 体験した活動プログラムは児童にとってどうだったか。

○ 登山

体力的にしんどい子を含めて全員登頂することができ学年全体のよい経験となった。子どもたちが一体感を感じ取ることができた。子どもたちが三瓶山登山でお互いに声を掛け合う姿も見られ、活動を一緒にする喜びを感じることができたと思う。

○ キャンドルのつどい

係になった児童がその責任をきちんと果たすことで満足感をもち自信にもつながった。

(3) 大田市立C小学校登山用ワークシートについて

○ 事前 目標づくり

班の目標及び班の目標達成のために自分がやることについて

班の目標では、多数の班で「みんなで」「協力して」といった目標が作れている。その他「安全に」「頂上まであきらめず」「登りきろう」「楽しく」「班の仲を深めよう」という言葉が見られた。

○ 事後 振り返り

① 班の目標は達成できましたか？

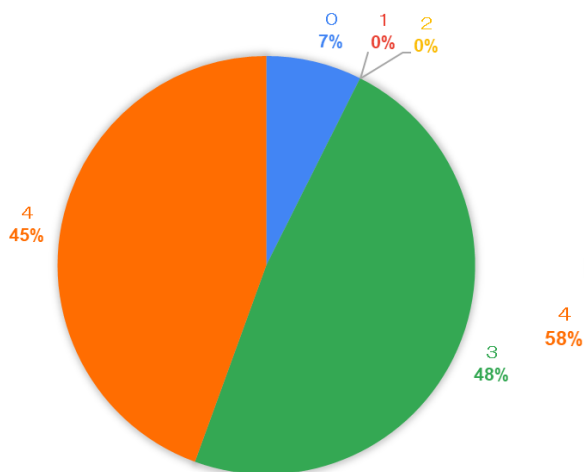


図 11：5年1組

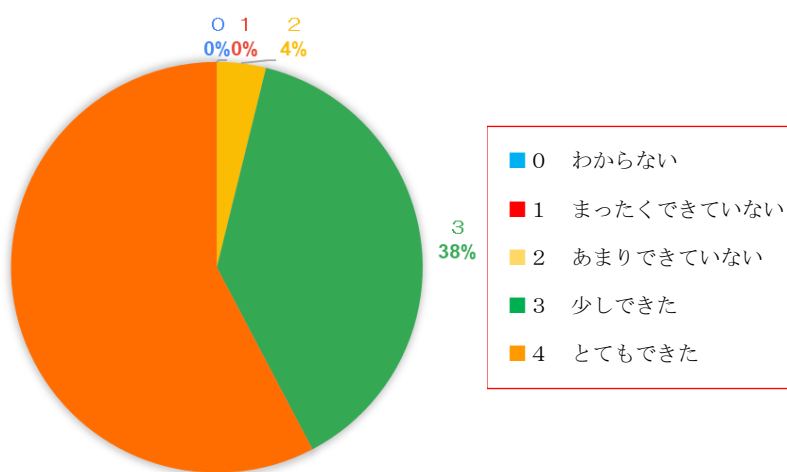


図 12：5年2組

② 班の目標達成のために頑張りたいことはできましたか？

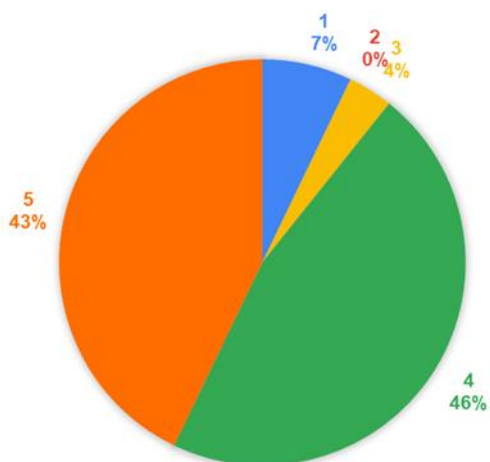


図 13：5年1組

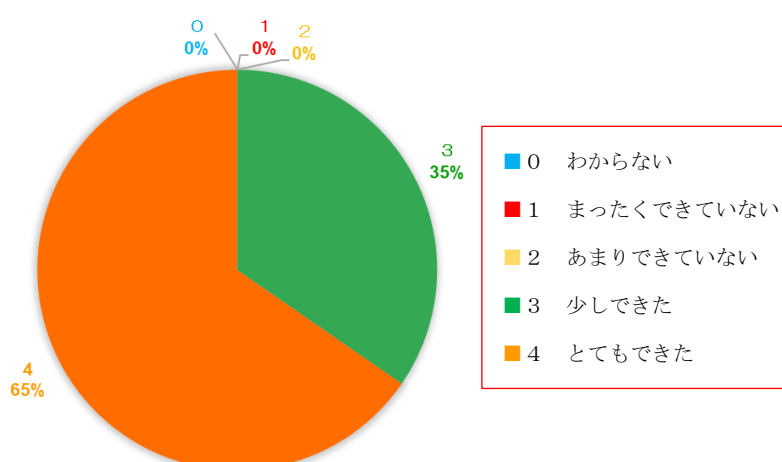
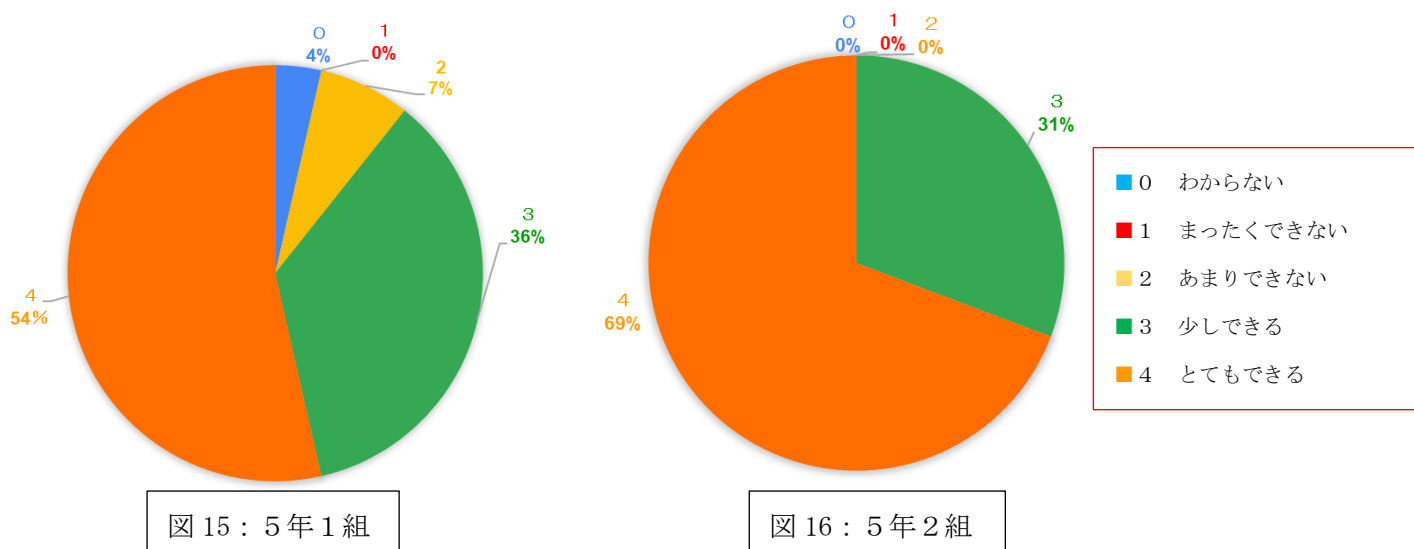


図 14：5年2組

③ 登山をしてみて、どんなことを感じましたか？（一部抜粋）

- ・下山をする時、けがをしそうな所も協力し合って下山できたので良かった。
- ・「がんばれ!」、「大丈夫?」などの声掛けもできてよかったです。
- ・みんなの絆が深まったと感じた。
- ・頂上についたときは、すごく達成感を感じてよかった。頂上で食べた昼食がおいしかった。
- ・登山をしてみていろいろな花や音が聞こえて、登山は大変だけど楽しかった。
- ・名号コースは険しかったけど、めあての「みんなで協力する」というのができたと思う。
- ・しんどい時に歌を歌って励ましている友達がいてうれしかった。

④ 登山の体験を今後に生かすことができそうですか？



⑤ ④の質問の番号を選んだ理由を教えてください。（一部抜粋）

- ・みんなで声を掛け合って、危ないところを知らせたりして協力できたことをふだんの生活に生かせると思ったから。
- ・危ない所などでした「声掛け」はこれからの生活でも生かせると思ったから。
- ・声掛けは私にもできると思ったから。
- ・仲間と助け合えば、乗り越えることが難しいことでも達成できると分かったから。
- ・一人じゃできないことがクリアできるから。

VI アンケート結果の分析と考察（福岡教育大学 山田准教授による分析を含む）

1 大田市立A小学校

◎ SAPの活動によって自己理解の深まりの可能性が示された。

SEL-8S アンケート結果（図8）が示すように、「自己のコントロール」「責任ある意思決定」において、元々それぞれの得点が高い（高群の）児童の得点が集団宿泊研修前後で低下した。これらは集団宿泊研修前のSAPの実施前後に大きな変化として表れている。

この結果は、落ち着いて行動できると思っていた児童やよく考えてから行動できると思っていた児童がSAPを通して、イライラしたり、衝動的に行動したりしてしまう自分自身に気付いたことによる変化と捉えることができる。

2 大田市立B小学校

◎ 対人関係に自信のなかった児童がコミュニケーションに自信をつけた可能性が示された。

◎ 規則正しい集団宿泊研修の実施で自己のコントロールの力が高まった可能性が示された。

SEL-8S アンケート結果（図9）が示すように、「自己のコントロール」において、元々得点が低い（低群の）児童の得点が集団宿泊研修前後で上昇した。くわえて、8月の段階から低群の「他者への気づき」「対人関係」「責任ある意思決定」の得点が上昇し、集団宿泊研修後でもその得点が維持されていた。

この結果から、夏季休暇以降、学校内でコミュニケーションに自信がつくような成長が見られ、集団宿泊研修を通して、そうした成長の維持が見られたと考えることができる。また、規則正しい集団宿泊研修を行うことで、自己のコントロールの力が高まり、更に落ち着いて行動する力が高まったと考えられる。

さらに、先生方へのアンケート記述の「時間を気にする児童が増えた」、「ONとOFFの切り替えが早くなった」という回答からも児童の自己コントロールの力が高まったと考えられる。

3 大田市立C小学校

◎ 対人関係に自信のなかった児童がコミュニケーションに自信をつけた可能性が示された。

SEL-8S アンケート結果（図10）が示すように、「自己への気づき」「対人関係」「責任ある意思決定」において、元々得点が低い（低群の）児童の得点が集団宿泊研修前後で上昇した。これらは宿泊研修前のSAPの実施前後に大きな変化が見られた。

また、「他者への気づき」においては、出前SAP実施と集団宿泊研修を行う中で低群の得点が上昇することが示された。SAPでは他者との協力をねらいとする活動が多く設定した。

集団宿泊研修中に行った登山後の振り返りワークシートには、「声を掛け合った」「協力して頂上を目指した」など「協力」や「助け合い」といったキーワードに関する記述が多く見られた。このことから協力を体験的に理解するSAPの活動に加えて、協力を実践する場として登山が設定されたことで、低群の児童のコミュニケーションに対する自信と他者理解が深まったと考えられる。

先生方のアンケート回答からも集団宿泊研修を通して、児童がより一体感を持ち、協力して学校生活を送れるようになったと考えることができる。

VII 成果と課題

1 成果

- ・集団宿泊研修の三瓶版モデル型プラン作成に向けて、当所で行う活動プログラムの教育的効果を分析することができた。
- ・SAPや登山は、当所が掲げる教育テーマ「自己を見つめ、他者とつながる人間力」に係る対人関係に必要な5つの評価項目の向上に影響を与えることが明らかになった。
- ・集団宿泊研修のスタート時にSAPを行い、協力することを体験的に理解し、集団宿泊研修日程のゴール時に協力を実践できる場として登山を設定するとよいことが明らかになった。
- ・今回、山田准教授の指導の下、登山プログラムの前後でワークシートを用いた。ワークシートを活用して振り返ることで、「自己理解」や「他者理解」が促され、今後の活動でも登山の経験で感じたことを実践する意欲を持つことができることが明らかになった。

2 課題

- ・今年度は登山プログラムに関するワークシートを作成し、事前の目標づくりや事後の振り返りを行った。来年度は、三瓶版モデル型プラン作成を見据えて、当所教育テーマ「自己を見つめ、他者につながる人間力の育成」と大きく関わると考えられる SAP や野外炊飯でも同様に、ワークシートを活用して、児童の変容を見取ることでプログラムの有効性を示す根拠を得たい。
- ・これまでの2年間はSEL-8Sのアンケートを用いて児童の変容を調べてきた。「自己を見つめ、他者につながる人間力」に着目し、「自己理解」や「他者理解」について調査をしてきた。ただし、集団宿泊研修を行う学校のねらいは各学校の実態で様々であることから、他の観点を取り入れたアンケートに改訂する必要がある。
- ・三瓶版モデル型プランを作成するためには、より多くの学校のアンケートを集計し、各学校の実態に基づいた研修計画を行う必要がある。そのため、大田市教育委員会に再度依頼をし、大田市全小学校の協力の下、アンケート調査を行いたい。

VIII 今後の取組

1 三瓶版モデル型プランの実施・検討

- ・令和5年度は、これまでの研究成果を基に当所における集団宿泊研修のモデル「三瓶版モデル型プラン」を策定する。登山プログラムを軸とした2泊3日の集団宿泊研修を推奨するとともに、学校と当所職員が事前に打合せを行い、研修日程を提案し、実施する。登山プログラムを軸に、SAP や野外炊飯等を組み合わせさせた研修を薦める。
- ・令和5年度の研究を基に三瓶版モデル型プランの分析を行い、令和6年度の研究につなげる。研究の4年目が終了するまでのところで、調査結果を基に集団宿泊研修の日程を決める際の参考となる資料を作成する。

2 地元大田市との連携

- ・令和5年度は、当所を利用予定の大田市の全小学校にアンケート依頼を行うこととしている。大田市の小学5年生約270人のアンケート結果から、モデル型プラン案の修正を行い、より当所の教育テーマに基づくモデル型プランとなるようにするなど、令和6年度以降の研究につなげる。三瓶版モデル型プランを行う上で、各学校と事前打合せを行いながら、各学校の実態を踏まえた集団宿泊研修のねらい設定を行う。
- ・大田市内には複数の小学校が合同で集団宿泊研修を行っているため、そのような学校とも事前打合せを行い、実態を踏まえた研修のねらい設定を共に行い、集団宿泊研修の日程を提案する。
- ・当所を利用した集団宿泊研修を通して、児童にどのような変容があったかをより具体的に調査するために、単独で集団宿泊研修を行う学校には、当所職員が学校に伺い、研修の事前事後の様子を見取っていくこととしている。

3 アンケート用紙

これまでは当所の教育テーマ「自己を見つめ、他者につながる人間力」の変容を調査するために、SEL-8Sアンケートを活用してきた。しかし、各学校の実態は多様であり、各学校が設定するねらいも多岐にわたる。そのため、各学校の実態に応じた集団宿泊研修の提案ができるように、令和5年度は福岡教育大学 山田准教授が新たに作成したアンケートを基に児童の変容を調査する。このアンケートは、7つの観点（「規律」「自立」「自律」「友愛」「奉仕」「勇気」「相互理解」）を基に質問項目を設定している。このアンケート結果を基にデータを蓄積し、三瓶版モデル型プランを通して、各学校のねらいに応じたプログラム提案ができるようにする。